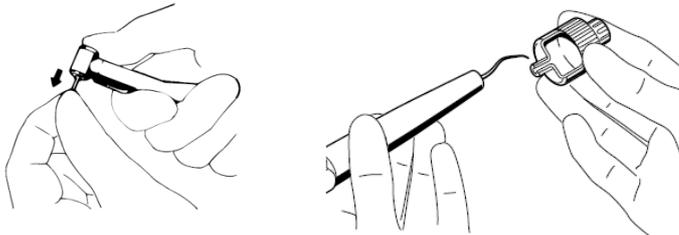


## ● ハンドピースのお手入れ タービン、コントラ、ヘッド、エアスケーラー

以下の順序でお手入れを行ってください

(お手入れは、必ず患者毎の実施をお願いします)

1. 診療で使用した、バーやスケーラーチップはハンドピースから取り外してください。  
スケーラーチップと専用レンチは、流水または水で汚れを落とした後、135°Cまでの滅菌処理を行います。

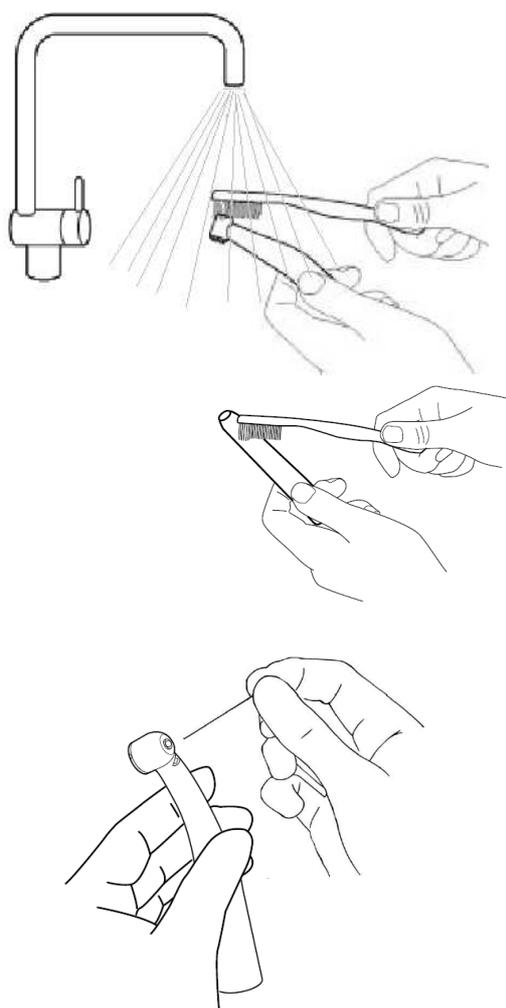
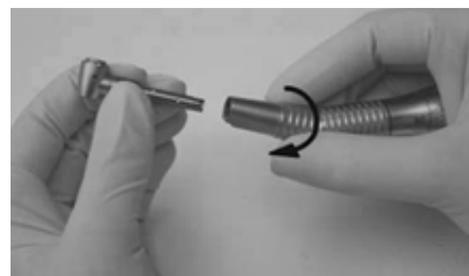


<p><b>注意</b></p>	<p>スケーラーチップは薬液洗浄を行わないでください。薬液に浸しますとネジの溝部分に薬液が浸透し、強度が弱くなり、ネジ部の折れが起こりやすくなりますので、必ず水のみで汚れを落として下さい</p>	
<p><b>注意</b></p>	<p>バーを外す際は、完全に回転が止まってから、チャックボタンを押し、バーを外してください。 また、バーを外した後、チャックを押したまま、フットペダルを踏み、ハンドピースのから回しはやらないでください。 チャックが開いた状態で回転が始まり、チャック保持力の寿命が極端に短くなります。</p>	

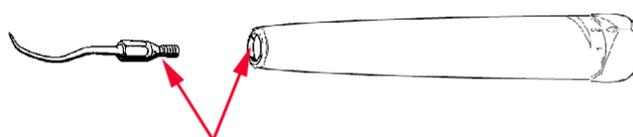
2. バーはご購入先のメーカー取扱い説明書に従い、適切にお手入れを行ってください。

<p><b>注意</b></p>	<p>バーの取扱い説明書に薬液洗浄が推奨されている場合は、その手順に従ってください。しかし、薬液に浸したバーを十分な洗浄を行わず、そのままハンドピースに装着しないで下さい。バー表面にわずかに残った薬液がハンドピースのチャックに付着し、急激にチャック保持力が弱くなり、チャックの寿命が極端に短くなります。必ず、バーは薬液洗浄後、十分に水で洗い流し、ワイプで水分を取り除き、滅菌後、ハンドピースに装着をお願いします。</p>	<p>薬液が付着したバーを直接ハンドピースに装着しないでください。</p>
------------------	--	---------------------------------------

3. 診療で使用したすべてのハンドピースを、モーター、マルチカプリングから取り外します。
4. ヘッドとシャンクが分離できるものは、ヘッドを取り外し、別々にして、お手入れを行います。
5. 流水下でブラシを使いハンドピースの外側の汚れを落とします



<b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 洗剤を使用しないでください</li> <li>■ 薬液にハンドピースを浸さないでください。</li> <li>■ 超音波洗浄は行わないでください。</li> </ul>
-----------	---



スケーラーはチップと本体のテーパ部（テーパ部分）の汚れをチェックし、清掃します。スケーラーチップの取り外しには、専用のトルクレンチをご使用ください。

また、スケーラー本体の水の出力をチェックします。詰りがありましたら、専用のクリーニングニードルを使用します。

タービンやコントラも、水の出方が悪い場合は、ハンドピースのスプレーエアーのホール（スプレーエアの穴）をチェックします。

詰りがありましたら、専用のクリーニングニードルを使用し、軽く力を入れずに突っつくレベルで清掃してください。



<b>注意</b>	<p><b>クリーニング時、無理な力を加えないでください。</b></p> <p>スプレーエアーの小さいホールは、専用のクリーニングニードルで清掃してください。</p> <p>また、スプレーエアーの水及びエアの経路にダメージを与えますので、ニードルを無理な力を加えたり、ニードルをねじ込まないでください。</p>	
-----------	--	--

6. カボスプレー又はクワトロケア等の自動注油機で内部の汚れをクリーニングし、注油を行います。  
(必ず毎患者毎の実施をお願いします)

**カボスプレーによる注油/クリーニング**



注油はチャック部からオイルが出てくるまでスプレーします。

(毎日 昼夜)



シャンクはワイプでシャンクを包むか、パックの中にワイプを入れてその中で実施するなど、オイルの飛散に気を付けてください。

(毎日 昼夜)



ヘッド部のお手入れ  
(毎日、昼夜)



チャック部のお手入れ  
1週間に一回以上

<p><b>注意</b></p>	<p>カボスプレー使用時はスプレー缶を傾けないでください。 スプレー缶は机の上に立てて垂直にして、必ず使用してください。 専用クリーニングパックを使うと、オイルの飛散が防止できます。</p>	
------------------	---	--

**クワトロケアによる注油/クリーニング** (必ず毎患者毎の実施をお願いします)



ハンドピースをセット



フタを閉じます



スタートボタンを押します

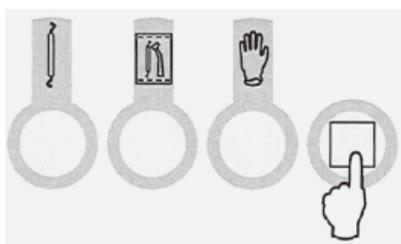


自動で注油完了

<p><b>注意</b></p>	<p>5倍速のコントラのお手入れは、患者さん毎に注油/クリーニングの実施を強く推奨します。また、他社の自動注油機を使用され、お手入れされた場合ですと、内部の汚れが十分に落ちずに、汚れが次第に内部に蓄積していく症状が出る場合があります。 この蓄積した内部の汚れによって、発熱や回転不良などの動作不良が短期間で発生し、ハンドピース自体の寿命を縮める場合がありますのでご注意ください。</p>
------------------	---

7. 高圧蒸気滅菌器(オートクレーブ)を使用し、135°C にて滅菌を行います。  
(必ず毎患者毎の実施を行います)

ステイテム900Jによる滅菌方法例



引き出しオープン



インストルメントをセット



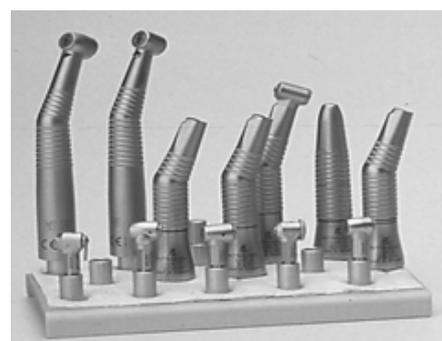
インストルメント選択

滅菌処理  
スタート

8. 滅菌処理が終わったインストルメントは、丁寧に取り出し、オイル残りの状態をチェックしてください。
9. チャック部にオイル残りが多いインストルメントの場合は、モーター又はカプリングにインストルメントを装着し、ワイプで受けながらインストルメントの空回しを30秒ほど実施してください。なお、等速ストレートコントラの場合はダミーバーを装着してから回転を実施してください。(滅菌後のハンドピースが温かい内にこの確認を実施してください。)

<p><b>注意</b></p>	<p>チャック部のオイル抜きの際、チャックを押しながら、フットペダルを踏み、ハンドピースの空回しはやらないでください。</p> <p>またワイプで包んで実施している際などで、ワイプを介して無意識のうちにチャックに触れている場合もありますので注意してください。チャックが開いた状態で回転が始まると、チャック保持力の寿命が極端に短くなります。</p>	
------------------	---	--

10. 滅菌処理とチャックのオイル残りの確認が終わったインストルメントは、10~20分ほどインストルメントスタンドに立てて放置します。この作業は、内部に残った余分なオイルを外部に排出させる効果があります。(滅菌後のハンドピースが温かい内に実施してください。)
- また、インストルメントスタンドにはオイルが垂れてきますので、スタンドの下にはワイプ等を敷いて、インストルメントから流れ出たオイルを吸い取るようにして下さい。



11. 最後にお手入れが終わったインストルメントは、滅菌パックに入れ保管してください。